健康ウォッチング

東陽病院 副院長 伊藤 文憲

胆嚢ポリープと癌

横芝町の皆さん今日は。胆嚢の病気は胆石症が最も多いものですが、その他に診られる病気についてお話します。最近では健康診断に腹部の超音波検査が取り入れられて胆嚢にポリープがあると言われることが多くなりました。正確な頻度は不明ですが97％以上は良性のものです。胆嚢の壁から盛り上がった隆起性病変としてみられます。ほとんどは大きさが5㎜以下であり、コレステロールポリープ（コポ）です。超音波でも特徴的な所見が得られますので鑑別が簡単です。

しかし、中には発見時にすでに大きさが5㎜を超える場合があります。この場合にはたんなるコポのみならず別の病気も考えなければなりません。良性であるが将来悪化する可能性のある腺腫や悪性の胆嚢癌を考慮する必要があります。

一般に胆嚢の隆起性病変では、大きさと形から診断が始まります。先に述べたコポは1～数個みられますが、大きさは5㎜以下が多く形も丸くエコーでもきらきらとした特徴的な所見がみられます。経過を追うことが多く大半は大きさには変化がみられず、時に徐々に大きくなり鑑別が必要となります。大きさが5㎜を超えた場合には造影CT検査や内視鏡を用いた胆管造影によって隆起の部分の詳細な検討が必要です。5～10㎜の間では経過を見ることもよく行われます。当初は3ヶ月毎、形・大きさの変化が僅かな場合には6～12ヶ月毎に超音波検査が行われます。大きさや形に急速な変化があった時や大きさが徐々ではありますが10㎜を超えた場合が問題です。これはポリープに腺腫性の変化が加わった場合で、悪性の可能性もあるために外科的な胆嚢切除術が行われます。腹腔鏡を用いた手術がお薦めです。

診断に困るのは慢性の胆嚢炎にポリープなどの隆起性病変がみられた時です。悪性との鑑別に役立つ胆嚢の壁の変化が複雑になります。検診にて胆嚢アデノミオマトーシス（胆嚢腺筋腫症）と診断される例は、この慢性の胆嚢炎に加えて一部あるいは全体に胆嚢壁の肥厚がみられる場合です。精密検査を行っても、良性と悪性の鑑別診断に難渋することが多く、疑わしきは罰せよと手術になるケースもあります。胆嚢内に大きな腫瘤がみられた場合には癌の診断は容易ですが、すでに進行癌となっていることが多く、手術も肝臓の一部の切除を含めた大きなものとなり、転移の可能性もあります。胆嚢の早期癌を発見するためには、腹部超音波検査のスクリーニングが最も適しています。肝炎ウイルスと肝臓癌のような危険因子が判明していないので毎年の検診が必要となります。

文芸

俳句

秋天をぐっと見据えて仁王尊
五七五心の故郷秋深む
浅野 茂子

四季移りそえる彩なき萩の道
散策の足にやさしきどんぐり路
池田 逸子

回廊に雨止みを待つ秋の旅
稜線に次々生るる秋の雲
伊藤 敬子

身ほとりも色に染りぬ秋の山
霜降の湯殿を遵ふ滴かな
岡田 雅美

捨て切れぬ書棚の中も秋昏れて
里の秋見はるかすなり檀林寺
勝又 和徳

片時雨武家の屋敷の静まれり
孫二人今日はお澄し七五三祝
向後 寛

物音を閉ざせし町は霧の中
雨止んでピラカンサスの実の光り
鈴木 繁子

町体に婆々も浮かれりゃ爺も又
秋冷や病む身に旅は縁遠く
若梅あやめ

つぐみ来る母の法事は城下町
秋の庭万葉の花こぼれおり
渡邊 栄子

名月に心の中をのぞかれし
待ち侘びて一人佇む月の径
選者 鈴木 草庵

短歌

夏の海に孫と拾ひし貝殻は
捨てられぬまま秋の深みく
真家ふじ子

越えて来し重き足跡語らねど
友は金婚の日を迎へたり
押尾 輝子

ゆるやかに昇りきたりし満月が
野の湧き水にゆれ動きぬつ
佐瀬 初音

夫と吾黙し歩める九十九里浜
子等と遊びし日を思ひつつ
田崎 尚美

朝風の涼しき農道歩みゆく
一日始まる幸を思ひつつ
池田 春江

夏草の茂る吾庭は恰好の
虫の住処か夜毎の合唱
吉岡 信子

父母の供花にてありし乾きたる
樒の花を持ちて帰りぬ
西山満里子

古里の父に貰ひし石南花の
枯れゆくさまを術なく見をり
八角 三枝

佳き匂ひ厨いっぱい満たしめて
ラズベリーを煮るひとりの世界
宇井 ちい

社会福祉充ちて安らぐ老後なり
よき世に生れし幸を思へり
鈴木 やす

杉森に夕風わたり風の尾を
追ふがに蝉の声たかまりぬ
萩原 信一

神馬となりて神輿の先駈けし
馬繋がれてなほも昂ぶる
選者 斎藤つね子